

男女共同参画情報誌

しるる

さっぽろ

創刊号



特集:札幌市男女共同参画センターオープン

上田文雄札幌市長へのインタビュー

札幌エルプラザ公共施設合同シンポジウム

女と男のトーク・セッション2003

インタビュー記事

育児お父さんインタビュー

上田文雄札幌市長へのインタビュー

男女共同参画を推進するための市民の活動拠点として男女共同参画センターがオープンしたことに伴い、上田文雄札幌市長に、男女共同参画社会実現に向けての熱い思いやこのセンターに対する期待などについて語っていただきました。

Q. まず市長の男女共同参画についてのお考えからお聞かせください。

私は、男性と女性がともにこの社会において暮らしている中で、男性も女性も、自分が自分らしく生きるための権利を尊重しながら、責任も分かち合っ、その個性と能力を十分に発揮できるような社会いわゆる男女共同参画社会の実現が何よりも重要であると考えています。

このため、市長に就任後、今後の札幌のまちづくりを進めていくうえでの私自身の考え方をまとめましたさっぽろ元気ビジョンにも、市民自治が息づくまちづくりという方策の一つに審議会など政策づくりの場への女性の登用を推進し、その女性比率の40%以上を目指すとともに、行政の施策や教育を男女共同参画の視点から見直すといったことを掲げています。男女共同参画は市政を進めていく上での最重要課題の一つと考えています。

Q. 具体的にはどのように男女共同参画社会を目指していくのですか。

札幌の人口の半分以上が女性です。ですから、女性の方が暮らしづらいと思う街は男性にとっても暮らしづらい社会であるとも言えるのではないのでしょうか。

このため、札幌市では、男女がともに豊かな生活をおくれるよう今年の1月に札幌市男女共同参画推進条例を施行しましたし、この条例の理念を実現するためのさまざまな施策を網羅した男女共同参画さっぽろプランを4月からスタートさせるなど着実な取り組みを進めてきたところです。

さらに9月に新たにこの男女共同参画センターをオープンさせたことによりソフト・ハード面での体制が出来上がったと思っています。

例えば優れた素材が整ったことから、今後はいかにおいしい料理を作っていくのが、といったように市民の皆様と協働しながらどう作りあげていくのがポイントになると思います。



札幌市長 上田 文雄

Q. 最後にこのセンターの機能や市民へのメッセージをお聞かせください。

センターは、男女が自立し、主体的に生きる力を支援することをはじめ、女性が抱える法律的な問題や女性の心とからだの悩み、仕事上の悩みといったさまざまな相談に応じること、健康を支援すること、女性の再就職や起業を支援すること、男女共同参画に関する情報を収集・発信することなど多くの機能を備えています。さらには、市民の皆さまのさまざまな活動を支援するためにホール、研修室などの貸室をご利用いただけるほか、男女共同参画に関する課題をテーマとしたセミナーなどを開催したりしています。情報センターには、専門図書やビデオ・DVDも用意しています。

札幌駅北口という交通至便な場所にありますから、市民のみなさんには男女共同参画の推進にあたっての総合的な拠点施設として気軽に、積極的に利用してほしいと思っています。

男女共同参画社会の実現は、暮らしの中にあるさまざまな疑問を見つけ出すことから始まり、その種を大きな木に育てるといった息の長い取組みが大切です。女性も男性も一人ひとりが生き生きと暮らしていくためのヒントを探しに、または伝え合うためにこのセンターを利用し、男女共同参画という名の木を大きく育てていただけることを願っています。

札幌エルプラザ公共施設合同シンポジウム

コップの水から人権まで～次世代につなぐ私たちの暮らし～

男女共同参画センターは、消費者センター、市民活動サポートセンター、環境プラザとともに9月1日にオープンしました。

この4つの施設のオープンを記念して、市民一人ひとりが生き生きと暮らす街づくりを目指すにあたり、それぞれの施設にかかわる活動を行っているシンポジストに施設の意義や今後どのように利用していったらよいかなどについてお話を伺いました。その発言要旨をご紹介します。



シンポジスト

作田和幸さん(ARATA編集長)／渋谷絢子さん(消費生活アドバイザー)
加藤知美さん(さっぽろ村コミュニティ工房理事)／松本英揮さん(エコロジスト)
コーディネーター
安田睦子さん((有)インタラクシオン研究所代表)

作田 シニア社会では、福祉、文化、教育、環境のいずれの分野にも男性の進出が少なく、これからの地域・市民社会をどう形成していくかという点で課題を抱えている。大事なものは定年後の男性、子育ての終わった女性が喜んで外に出る場づくりが大切。第一の人生でそれなりの肩書きがあり、定年と同時に一切それらの社会的身分のはがれた男性の喪失感はとても大きいと思う。人と人と横につながる市民社会、地域社会の中に出て行く第二の人生では、昔の肩書きが捨てきれない。宇野千代さんの「昔の誇りは捨てることはない。でもそれはちょっと横において平場の付き合いに入っていくことは出来るでしょう」という言葉を紹介したい。また次世代を支える子どもをどう育てていくか。少子化の問題をこれからは男女共同参画事業の主要の柱にすべきだ。この公共施設が4施設の活動家だけの拠点施設ではなく、いろいろな人が誰でも出入りできて市民の語り合いの場になることを望む。

渋谷 消費者として身の回りの問題に気づき、地域や企業に意見を出していくために、子どもも含めた若い消費者のための消費者教育が必要だと考えている。定年後の男性は必然的に家事の一部分を担ってきている。

家事をすることで食品の問題や道具の使い勝手などがわかってくる。消費者問題は生活の基本問題。4つの施設が生活の中身にかかわりあっているので、情報の広がりがあり、地域活動への興味も広がっていくのではないかと。また子どもたちの世代へつなげていくための役割があり、一人の人間に対して多方面からの働きかけが行えるような柔軟な人たちで運営されていくとよいと思う。

加藤 情報による街づくりを進めようとラジオ局を始めた。普段着姿の近所の人たちが地域のさまざまな情報番組を作っている。結果として異世代交流や仕事などの背景が違う人たちが一緒に活動できる場になっている。メディアはプロによって作られるという固定観念があったが、コミュニティ放送は地域の人が地域のために放送に携わることができ面白い。この施設は1年生のランドセルのように硬い感じだが、利用者が使い込むことで馴染んでいくと思う。ここに一足先に来ている方やスタッフがホスピタリティを発揮し、「ここに来ると何かあるよ」という場、市民一人ひとりの市民力を発見して育てる場になるとよい。

松本 環境の問題についてどうしたら根本的なことを改善できるのか、

また今地球で何が起きているのかを知ると、街、自分、国がどう変わるとよいか分かる。

フィジーなどの南太平洋の島々では自分の島が沈み始め、環境難民が発生しようとしている。それは彼らの責任ではなく、先進国がエネルギーを使いすぎ二酸化炭素を大量発生させ、南極の氷が溶け出しているからだ。地球はつながっている。たった一つのごみを減らす、コップ一杯の水を大切に使うところから社会問題を解決し、豊かな街づくりが出来るのではないかと。市民活動の場としてモデルになるような施設、子どもも来やすく人間に対して優しい施設であってほしい。

安田 この施設が誰もが入れるところ、子どもが来やすいところ、使い込んで使いやすくなる施設、市民活動のモデルになるような空間になってもらいたいというご提言をいただいた。今回のテーマの「コップの水」は身近なところから、「人権まで」は欠かせないものまでということで、これからの世代に有機的につながっていくことが望ましい。

女と男の トーク・セッション2003

アナウンサーの汗と涙 ～ことば そしてメディア～

【第1部】 講演



まつながとしゆき
松永俊之さん
(北海道放送編成制作局付局長)



たにおか りか
谷岡理香さん
(東海大学文学部広報メディア学科助教授)

私が入社した昭和44年のころは、2カ月半のアナウンサー養成期間がありました。その期間を終え「初鳴き」という初めての放送は「2時半ですHBC」というアナウンスでした。それを「3時半です」と言った忘れられない経験があります。その後の天気予報で「石狩空知後志地方」と言うところを「石狩空知シベリア地方」と言って、当時のアナウンス部長から「明日からスタジオに入ることはまかりならぬ」と言われ、翌朝5時から40人分の先輩の机拭き、お茶くみ、電話取り次ぎ……。1週間続けたところ、アナウンス部長に「おまえの失敗はおまえ個人で終わらない。HBCの失敗として聞かれる。もう一度やり直せ……」と。しかし1度あることは2度あるもので、なんと今度は前日の天気予報の原稿を読んでしまったんです。再び机拭き、お茶くみ、電話取り次ぎと悲惨な新人アナウンサー時代でした。

当時、大ベテランの女性アナウンサーが3人いました。男では気がつかないヘアスタイルやネクタイなどファッションに関するアドバイスをいただき、「上達の陰に女性アナウンサー、先輩ありき」という感じです。

そして私は今、「松永俊之の土曜花盛り」というラジオ番組を担当しています。一緒に担当しているのが山田頼子さんというフリーアナウンサーです。男女かけ合いの番組では、トークの8割を男性が、女性は2割ほどとなっています。しかし私の番組ではフィフティーフィフティーで、本当のかけ合い番組だと思っています。

また、私は養護施設などで朗読や紙芝居をさせていただいています。朗読や紙芝居をすることによって、自分の心の健康にもつながるし、喜んでくださるみなさんの表情を見ていると、私も生きている喜びを感じ勇気が湧いてきます。お会いする全ての方が私にとって先生であり「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。

皆さんはテレビを1日何時間くらいご覧になっていますか。日本人は1日平均3時間以上テレビを見ているというデータがあります。テレビ、新聞、ラジオ、雑誌というメディアから、洪水のように流れてくる情報が、結果として本当かどうか確認していくことなどをくメディアリテラシー>と言っています。見る側も賢くなり情報に振り回されず、「あれはおかしいのでは」という意見を伝え、それをさらに送り手側が確認するといった関係が築ければと思います。

私は、放送局に勤めたりフリーランスなどで放送にかかわる女性たちの会、日本女性放送者懇談会に所属しています。ここで1999年に行った『放送ウーマン調査』では、放送局の社員として働いている女性の割合は、日本全国115社の平均で女性15%、男性85%ということが分かりました。部長級以上の管理職になると女性の割合は2.1%で、代表権のある女性がいる放送局は日本にはありません。世界の国々でも最低レベルです。

これはメディアの送り手が男性に偏っているということの意味しています。メディアが社会に与える影響の大きいことは、世の中では当たり前になってきています。メディアでどんな女性が描かれているのか、どんな男性が描かれているのか。中で働いている送り手がどういう考え方の持ち主なのか。それによって当然作られる番組も撮影一つ取っても変わってくるわけです。事実のどこを切り取るかによってお茶の間の皆さんに届く「事実」は違ってきます。それを演出とも言えるし、ひどいときには「やらせ」にもなります。ある人にとっては平気でも、別な人にとっては痛みと覚えることもあるのです。ですから送り手側の人間は、女性・男性・障がいのある人・外国人・少数民族などさまざまな立場の方、いろいろな考えを持つ方がいた方が良いと思っています。

女と男のトーク・セッションは、「国際婦人の十年」の最終年に当たる昭和60(1985)年度から、女性問題の切り口で、これからの女性と男性のあり方を考える事業として開催してきており、今年で20回目となります。

今回はメディアが男女共同参画に与える影響がいかに大きいかなど、メディアリテラシーの考え方を知るため、「アナウンサーの汗と涙～ことばそしてジェンダー」をテーマに谷岡理香さんと松永俊之さんによる講演と対談が行われましたので、その概要をご紹介します。

【第2部】 対談

谷岡 松永さんは長い間一つの地域に密着し放送ができてうらやましいことです。私は定年まで働くつもりで入社しましたが、「結婚した女はいらない、結婚する女はいらない」という不文律があって……。

松永 そういう放送局がまだあるんですね。

谷岡 いっぱいあります。男女雇用機会均等法で法律的には守られていますが、商品価値がなくなったと見なされたら……。

松永 商品価値といっても今は中高年の時代ですよ。HBCは私が入社した34年前から40代の女性アナウンサーが数人いましたし、出世の面でも男性とそれほど違いはありません。

私は29才の時、先天性股関節脱臼の再発で1年間入院療養生活をしました。杖をつくことになって「アナウンサーとしてやっていけない」と自暴自棄になりましたが、主治医の先生から「日本で一番、他人の痛みがわかるアナウンサーになってほしい」と手紙をいただき救われました。

谷岡 杖を持つようになってからお気持ちが変わりましたか。

松永 変わりました。自分がそういう立場になってみて初めて体が不自由な方の気持ちがわかるんですね。以前、小学校に通う脳性麻痺の子どものお母さんから、遠足に関する一通の手紙を頂戴しました。「30kg近い体重の子をおぶって円山に登った。その気持ちはまるで富士山に登ったように嬉しかった」と……。その手紙に触発されて私も藻岩山に杖をつきながらでも登りました。それによって足が悪くてもやれば出来るんだという自信がわきました。

谷岡 それは放送でお話になったのですか。

松永 はい、話しました。

谷岡 それを聞いた方々は、「よし私も頑張ろう」ときっと思われたでしょうね。それは良い意味でのメディアの力ですね。私が忘れることのできない辛い思い出は、ラジオ番組で「お米を大切にしないと目がつぶれるよと教わったので、一粒も残さずにご飯を頂きます」という台本を読んだときのことです。私は「目の見えない方が聞いていたら」とはっとしましたが、その番組でアナウンサーはコメントできませんでした。数日後、目の見えない方から「とても悲しい」というお便りが届きました。言葉は励みになることもありますが、人を傷つけること



もあります。

ところで、テレビを見ている方は女性アナウンサーに求めるものが厳しいとお感じになりませんか？きれいなものを着ていて、スタイルが良くなければいけないとか。

松永 あるでしょうね。女性アナウンサーの中には給料の7～8割を衣装にかける人もいと聞きました。

谷岡 色がきれいで優しい雰囲気が伝わるようにと涙ぐましい努力をしています。テレビ写りがいいものと動きやすいものとは違うんです。また温泉の宣伝で、「女性アナウンサーに入ってもらいたい」と言われたアナウンサーが、「人様の前に出るのにバスタオルを巻いていてもいや。でも自分が断れば別のフリーランスの女性がそうなるのはどうだろうか」ととても悩んだそうです。「女性アナウンサーが、バスタオルを巻いてまで温泉に入らなくてもいい」というお便りをいただくようになって、そういう力のおかげで無理に入らなくても良くなったという局は増えてきたようです。

松永 私がアナウンス部長の時には原則として「NO」でした。アナウンサーはニュースを読むという仕事があります。ニュースを読むアナウンサーと裸のシーンのアナウンサーがオーバーラップすることで信ぴょう性にかかわってくると考えて、女性アナウンサーだけでなく、男性アナウンサーも原則「NO」にしていました。

谷岡 アナウンサーとタレントの違いはそこですよね。アナウンサーはニュースをきちんと伝える人間です。

松永 『世の中は持ちつ持たれつ女と男』というように、男と女は支えあって生きています。1日家事をしてみるとその大変さがわかるのではありませんか。私も最近になってアイロンがけや靴みがきなどは自分でもするようにしています。相手の立場を考えるとということがいかに大切かということではないでしょうか。

Interview

育児お父さん インタビュー

このコーナーでは、さまざまな分野で男女共同参画社会の実現を目指して取り組んでいる『人』を紹介します。
今回は、子どもが通う小学校で「おやじの会」の活動に携わる菅野博之さんと、2度の育児休暇を取得した川田誠司さんにお話を伺いました。

かんの ひろし
菅野博之さん

(漫画家)
4歳と小学校4年生の子どもの父



(イラスト: 菅野博之)

【おやじの会】

平成15年の4月、前年度のPTA役員だった父親4名で「地域と家庭がくっつく接着剤になれば…」と発足し、月に1回程度、父親の交流会を行っています。

【おやじの会のメンバーは…】

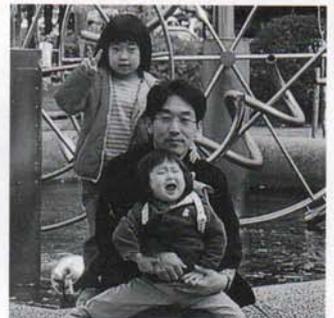
おやじの会に参加するか、しないかの違いは、子どもとかかわらない状況に満足できるかどうかの違いだと思っています。子育てにかかわっていないと、どんな友達と遊んでいて、どんなことに興味を持っているのか分かりません。子どもの話を聞くだけで理解できるほど、人間は薄っぺらくはないと思います。おやじの会のメンバーは、「子育てにかかわらないことがもったいない」と表現しています。

【今後の活動】

参加者が少ないのが現在の課題。会の存在が浸透するのに時間がかかるのは仕方ないことだと思っています。有意義な会にするために、何かテーマを持って話し合いをした方がいいのかと検討中です。

かわた せいじ
川田誠司さん

(生活クラブ生活共同組合勤務)
長女が8カ月の時から4カ月間、
次女が4カ月の時から半年間の
育児休業を取得。
現在、2歳と5歳の子どもの父



【職場の理解】

育児休業制度を利用できたのは、職場の理解があったからこそ。男性が育児休暇を取るかどうかは、それまでも家事を一緒にやっていたかどうか、育児休業終了後も家事、育児を分担するかどうかによるのかもしれない。

【当たり前の社会】

男性が育児休暇を取ることが当たり前になるために、男性が家事、育児をするTVドラマなどができないでしょうか。事例をたくさん作り、情報を発信することで、新しい育児のイメージが作れるのでは。社会の仕組みはどこかで誰かが変えないと変わりません。もっと、余裕のある社会を目指したいですね。

【今、振り返ると…】

育児を「やった」と「やらない」では全然違います。ぎんぎん泣いている子どもを見て、何で泣いているのかを考える。忍耐ですね。育児のおかげで、人間としてちょっとだけ大きくさせてもらったと思います。

札幌市 男女共同参画推進室 からのお知らせ Information

審議会等委員の 女性登用率

男女共同参画社会を実現するためには、政治の場や職場、地域、教育等あらゆる分野において政策・方針決定過程に男女が対等の立場で参画することがきわめて重要です。

このため、札幌市では、札幌市男女共同参画推進条例（平成15年1月施行）に基づき策定した「男女共同参画さっぽろプラン」（計画期間：平成15年4月～平成25年3月）の中で政策・方針決定過程等への女性の参画拡大を大きな柱の一つに掲げており、その中で審議会等委員への女性登用率の目標値をこれまでの30%から40%に引き上げました。

今まで以上に女性委員の登用促進に努めていきます。

審議会等委員の女性登用率	
平成15年12月現在	29.2%
平成24年3月までの目標値	40.0%

◆ 情報センターのご案内

男女共同参画・消費生活・市民活動・環境に関する4分野の図書、行政資料、視聴覚資料、郷土資料、逐次刊行物の資料を自由に閲覧したり、借りることができます（一部資料は閲覧のみ）。

また、4分野に関する各種団体やイベント情報をパソコン操作で集めることができます。

開館時間	閲覧／9:00～20:00 貸出／9:00～19:45
貸出冊数 貸出期間	図書資料／1人4冊 14日間 視聴覚資料／1人2点 7日間 ※返却期間の末日が休館日と重なった時は、繰り下げます。
休館日	12/29～1/3 図書整理日（原則毎月最終日） 特別整理期間
詳細・お問い合わせ先 情報センター TEL:728-1223	



◆ 相談窓口のご案内

男女の人権相談 電話または面接相談 728-1226

夫・恋人からの暴力や不当な差別、セクシャル・ハラスメント、ストーカーなど男女の人権について、専門の相談員がお話を伺います。

毎週月曜日／10:00～12:00 毎週水曜日／18:00～20:00

女性のための仕事の悩み相談 電話または面接相談 728-1227

再就職・職場復帰、起業・創業、自己開発計画、家庭の問題と就業、対人関係などについて、専門の相談員がお話を伺います。

毎週水曜日／13:30～15:30 毎週土曜日／10:00～12:00

女性のための総合相談 電話または面接相談 728-1225

家族のこと、夫婦のこと、生きかた、心配ごと、思春期の悩みなどについて、専門の相談員がお話を伺います。

第1・3・4・5火曜日／15:00～17:00
第2火曜日／18:00～20:00 毎週木曜日／10:00～12:00

女性のための法律相談（要予約） 面接のみ／予約電話 728-1222

法律的な分野（離婚、親権、相続等）について、弁護士がお話を伺います。

第1・3・4・5金曜日／13:00～15:00
第2金曜日／18:00～20:00

女性のための心からの相談（要予約） 面接のみ／予約電話 728-1222

体調不良や心の不調などを、産婦人科医、精神・神経科医、心理士がお話を伺います。

第1・2・3火曜日（精神・神経科医、心理士）
第4火曜日（産婦人科医）

※いずれの相談も祝日は除きます。

※相談の予約は、年末年始を除く毎日（8:45～22:00）受け付けています。

✔ 相談は無料です。

✔ 秘密は固く守ります。

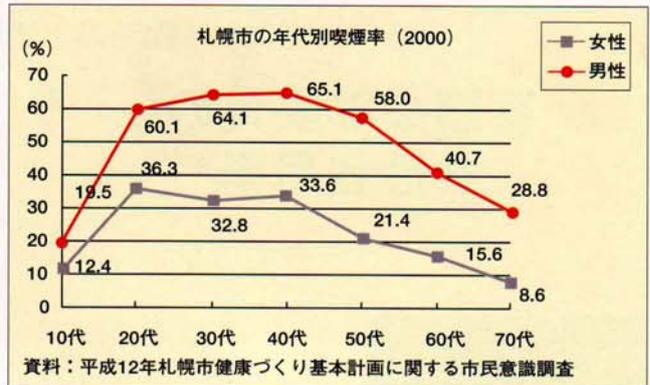
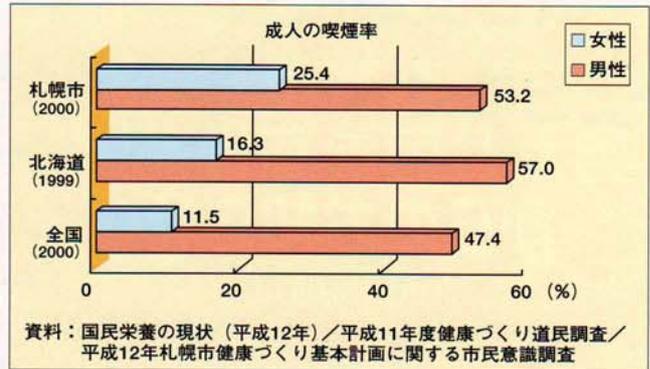
✔ 札幌に在住・通勤・通学の方を対象にしています。

25.4%

札幌の
成人女性の
喫煙率

札幌の女性の喫煙率は全国、全道と比べて、かなり高い割合になっています。喫煙は肺がんなどの多くのがんの危険因子で流産、早産など妊娠に関連した異常、心臓疾患などにも深い関係があることが明らかになっています。たばこに含まれるニコチンは血管を収縮させ、皮膚の毛細血管の血行を悪くします。その結果、「しわ」が吸わない人に比べて4倍以上多くなるというデータがあり、虫歯や歯槽のうろうになりやすいと言われていました。「平成13年母子保健に関する市民意識調査（札幌市）」では妊娠中の喫煙率は18.7%と高い数値になっています。

男女共同参画社会の実現には、生涯を通じた健康の維持増進が大切です。そのため、私たちは喫煙に限らず普段から健康について考え、行動していきたいものです。



男女共同参画センター主催事業のご案内

「プロから学ぶ和食の基本～冬野菜を使って～」

料理の初心者を対象に、和食の基本を学びます。

日時：1月24日（土）16:30～19:00

対象：札幌市内に居住または勤務する 男性／25名

受講料：1,500円

会場：札幌市男女共同参画センター 料理実習室

男女共同参画センターで行われる主催事業にはすべて託児（2歳以上就学前の幼児）があります。

詳細は、男女共同参画センターまでお問い合わせください。

TEL (011) 728-1222

乳幼児をお連れの方…男女共同参画センター「授乳コーナー」をご利用ください。

〈編集後記〉

男女共同参画センターがオープンし、男女共同参画情報誌「リぶる さっぽろ」の創刊号を発行することができました。池に小石を投げると、水の輪が後を追うように広がっていきます。男女共同参画社会の実現に向けた一つひとつの取り組みが広がっていきますように…。充実した紙面を目指して発行していきます。どうぞよろしくお願ひします。

〈お便りお待ちしております〉

はがき、封書、FAXで、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、
札幌市男女共同参画センター「リぶる さっぽろ」係
までお送りください。

「再就職準備講座」

再就職に向けた心構えとパソコンの基礎を実習します。

日時：1月30日（火）～2月24日（金）

〈毎週火曜・金曜 全8回〉

午前コース：10:30～12:00

午後コース：13:30～15:00

対象：札幌市内に居住または勤務し、再就職を希望する女性／各コース20名

受講料：6,000円

会場：札幌市男女共同参画センター IT研修室



（お越しの際は公共交通機関をご利用ください。）

発行日：平成15年12月

発行：札幌市男女共同参画センター

（管理運営 財団法人札幌市青少年女性活動協会）

住所：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011) 728-1222 FAX：(011) 728-1229

URL：<http://www.danjyo.sl-plaza.jp>